

平成28年度第1回小鹿野町総合教育会議会議録

開催日時 平成28年6月22日(水) 午後1時30分
開催場所 両神ふるさと総合会館 3階 会議室
開会時刻 午後1時36分
閉会時刻 午後2時30分

出欠席状況

町長	福島弘文	出席
教育長	中紀雄	出席
教育委員	齊藤榮一	出席
	高橋美正	出席
	朝比奈玲子	出席
	小池恭一	出席

その他会議に出席した者

学校教育課長	高橋俊行
学校教育課主幹	黒田佳之
総務課長	黒澤博文
総務課主幹	新井昇

傍聴者 なし

会議録署名 中紀雄

日程

日程第1 会議録署名委員の指名
日程第2 議事
(1) 平成28年度小鹿野町教育行政重点施策について
(2) その他

閉会

会議の進行状況及び顛末

開会 午後1時36分

町長 あいさつ後、全員の出席を確認し、平成28年度第1回小鹿野町総合教育会議の開会を宣言する。

日程第1 会議録署名委員の指名

町長 会議録署名委員については、中紀雄教育長を指名いたします。

日程第2 議事

町長 次に日程第2、議事に移ります。始めに(1)平成28年度小鹿野町教育行政重点施策についてを議題とします。

教育委員会事務局より説明をお願いします。

「はいの声あり」

高橋課長 それでは、上程いただきました平成28年度小鹿野町教育行政重点施策についてご説明させていただきます。

お手元に資料を配布してございますが、それをご覧いただきながらお願いします。

最初に、カラー刷りの資料がありますが、「小鹿野町教育いきいきプラン」というもので平成28年度教育行政重点施策・概要を示させていただきます。基本理念と基本目標につきましては、昨年と同様であります。今年度の重点施策についてご説明させていただきます。5項目を挙げているわけですが、1点目が、先ほどの町長の挨拶にもありましたが「確かな学力の育成」ということです。2点目が「自立し周囲と協調できる社会性の育成」ということです。3点目が「グローバルな視点を持ち夢の実現に向かう活力の育成」です。4点目が「豊かな人間性と健やかな体の育成」。5点目が「伝統文化の継承と生涯にわたる学びの支援」ということで、それぞれ3項目から5項目の取り組みを挙げております。内容については、次にあります縦A4版の資料で説明させていただきます。

平成28年度小鹿野町教育行政重点施策というものがあるかと思えます。その中の下段のところには本年度の重点ということで、今、申し上げた5項目が入っております。

2枚目をご覧ください。2枚目から内容についてご説明させていただきます。重点施策と努力点ということで、1点目が確かな学力の育成ということでございます。学力の定着に向けた多様な学習機会の設定と学習指導の充実を図るということです。施策と重点的な取り組みとしまして、4項目を挙げています。1点目が、小・中学校9年間を一貫した教育の推進ということで、共通研究課題の設定と小中一貫教育推進会議の設置による9年間を見通した指導の確立を目指しております。イとしまして、小規模校のよさを生かした指導方法の研究と学びの基盤としての小学校教育の充実でございます。ウとして、幼・保・小・中・高の連携促進による滑らかな学校間接続の推進ということ掲げております。2点目の(2)として学力向上に向けた授業の改善ということで、アとして学習意欲を向上させる新たな学びづくりに向けた授業改善ということでアクティブラーニングの導入です。イとしまして、言語活動を通じた言語能力の育成と図書館教育の推進でございます。ウとして、各種学力調査の結果分析と実態把握に基づく個に応じた指導の充実ということで、町学力パワーアップテスト等の実施を考えております。3点目の教職員の資質向上といたしまして、アとして、教員の学級経営・授業力の向上を図る研修の充実ということで、若手教員の育成に努めてまいります。イとして、教職員の意識改革、視野の拡大を図る研修の充実ということで学校運営参画意識の向上を掲げております。ウとして、教職員のICT教育推進に向けた研修の充実ということで、ICT機器活用技能の向上に努めるということです。4点目の(4)として、学習機会の拡充と直接的な支援ということで、先ほどの町長の挨拶の中にもありましたけれども、アと

して、小鹿野未来塾事業の推進ということで、中学生未来塾による補充学習支援、英検・漢検チャレンジ講座、科学不思議講座等を実施しております。イとして、町で予算を付けていただきまして、学習指導員の全校配置と学習支援推進員の配置をさせていただきます。

次に2番として、自立した周囲と協調できる社会性の育成ということで、人とのつながりを大切にする教育の推進を掲げております。施策と重点的な取り組みとしまして3点挙げております。1点目が自治・自立に向けた態度の育成でございます。アとして、自治的・自立的態度を育成する生徒指導の推進。イとして、地域に根ざした新たな伝統行事づくりに向けた児童生徒による創造的な活動の推進でございます。2点目で、社会体験・ボランティア活動の充実でございます。アとして、社会体験チャレンジ事業や地域と連携した福祉体験活動の充実です。イとして、地域活動への参加の促進、歌舞伎をはじめとする郷土芸能、環境整備活動等でございます。ウとして、夢や志をはぐくむハートコンタクトプログラムの推進でございます。3点目が、地域の教育力を活用した子供たちの安心・安全の確保でございます。アとして、スクールガードリーダーや学校応援団、安全ボランティア、子供110番の家等による子供たちを見守る活動の展開及び通学路の安全点検の実施でございます。イとして、家庭・地域社会と連携した地域ぐるみの見守り活動・防犯活動の推進です。ウとして、学校防災マニュアル等に基づく学校安全の徹底です。通学路の安全確保等を行っております。

次ページをご覧ください。大きな3点目で、グローバルな視点を持ち夢の実現に向かう活力の育成ということで、未来を拓げる親子共学の推進でございます。施策と重点的な取り組みとして3点掲げさせていただきます。1点目が、夢と志をもち、自立する力の育成でございます。アとして、系統的・組織的なキャリア教育の推進ということで、確かな将来展望と将来を志向する態度の育成を目指しております。イとして、地域や産業界との連携・協力の推進ということで、地域とふれあう体験活動の充実でございます。ウとして、日本人としてのアイデンティティを育成する小鹿野ふるさと学習の推進でございます。(2) P T A活動の充実でございます。アとして、おがの家庭教育宣言の推進ということで、家庭での教育に力を入れていくということで、家庭学習の推進ということでおがの家庭教育を推進しております。イとして、子供の規範意識、読書活動、家庭学習習慣化の促進です。ウとして、学校応援団等の地域組織による学校支援活動の充実でございます。3点目が、学校・家庭・地域が一体となった教育の推進です。アとして、英検・漢検や夏休み親子学習プログラムへの親子での参加ということで、中学卒業時に英検3級を4割程度ということで掲げております。イとして、地域人材・地域連携を活用した教育活動の推進です。ウとして、教育活動に係る情報の積極的な発信ということで、相互理解の深化を目指しております。

大きな4点目ですが、豊かな人間性と健やかな体の育成として、自他の命と心を大切にする教育の推進を掲げております。施策と重点的な取り組みといたしまして、3点掲げさせていただきます。1点目が、望ましい人間関係づくりの推進でございます。アとして、自他の違いを認め、望ましい人間関係を構築する態度の育成です。イと

して、教育相談活動の充実とソーシャルスキルトレーニングの段階的な実施です。ウとして、学級の間人間関係を客観的に分析するための調査の実施・活用、ハイパーQ Uの活用でございます。2点目が、道徳教育・人権教育・特別支援教育の充実でございます。アとして、道徳的実践力を培う道徳教育、人権教育の充実として心の教育の推進を図ります。イとして、他者のよさを認め、思いやりの心を育む教育の充実ということで、ほっとハートキャンペーンを実施いたします。ウとしてインクルーシブ教育の推進でございます。3点目ですが、健康教育の推進では、アとして、教育施設整備グランドデザインに基づく新給食センターの建設による食の安全確保と、栄養教諭との連携を生かした食育の推進でございます。イとしまして、望ましい生活習慣の確立に向けた家庭への意識啓発と連携の深化でございます。ウとして、新体力テストの結果を活用した計画的・継続的な体力向上の推進であります。持久力に若干の問題があるため、持久力の向上を掲げております。

大きな5番目であります。伝統文化の継承と生涯にわたる学びの支援といたしまして、生涯にわたる学びの支援とスポーツの推進を掲げております。施策と重点的な取り組みといたしまして、5点ほど掲げております。1点目が、ライフステージに合わせた学習機会の提供と支援であります。社会教育課で担う部分でございますが、アとして、児童生徒を対象にした訪問講座の開催で、人権を考える集い等であります。イとして、学校、家庭、地域による家庭教育支援ということで、子育て支援コンサート等の開催を計画しているところであります。公民館で担う部分であります。アとして、国際理解力を高める外国語研修の開催、イとして、ライフステージに見合った各種教養講座の開催でございます。2点目が、生涯学習推進体制の整備と促進としまして、社会教育課では、アとして、生涯学習活動の支援と学習成果の活用ということで、小鹿野ときめき生活推進大学を進めております。公民館といたしましては、アとして、生涯学習社会を見据えた自主的文化活動の支援ということで、小鹿野文化祭、ふるさと祭り文化展の開催であります。イとして、関係機関と連携し、独身者への結婚力アップスクール講座の開催でございます。3点目が、健康づくりとスポーツの推進でございます。社会教育課の分野になりますが、アとして、生涯スポーツ、レクリエーション活動の充実ということで、各種スポーツ教室・大会等です。イとして、生涯スポーツ活動の充実に向けた環境整備ということで、現在建設を進めております小鹿野武道場の建設・活用でございます。4点目が、文化芸術の振興と伝統文化の継承でございます。社会教育課でございますが、アとして、伝統文化の育成と活動の推進ということで、歌舞伎・郷土芸能祭等であります。イとして、文化財の保存と活用の推進になります。公民館では、アとして、文化団体の育成と文化活動の促進ということで、西秩父美術展等の開催であります。イとして、優れた演芸や卓越した技術を学ぶ文化講演会及び町民劇場の開催でございます。最後の5点目になりますが、図書館機能の充実と読書活動の推進ということで、図書館の事業になりますが、アとして、乳幼児への読書活動の推進として、ブックスタチャレンジ、読み聞かせ親子ふれあい出前講座等を開催する予定です。イとして、図書館、学校図書館の連携と充実ということで、図書

管理システムの共通化を進めております。学校図書館サポートセンターとしての機能化を進めております。ウとして、図書館を使った調べる学習コンクール地域コンクールの開催ということで、今、準備を進めているところであります。

次ページをご覧くださいますと、参考資料がございます。今、申し上げた28年度の重点施策を推進するにあたりまして、下段にあるように4つの分野に分け、それを統括するような形で教育委員会が主体となって学びの支援推進委員会を組織し、相互の連携を進めているところです。1から4ということで、①として、生涯学習の推進事業ということで、公民館、社会教育課、図書館が連携して進めると、2点目の児童・生徒の学習支援事業ということで、学校教育課が担うということになります。3点目が読書活動の推進事業ということで、図書館、学校教育課、公民館が担うこととなります。4点目の家庭教育の推進事業では、社会教育課、学校教育課、公民館、図書館ということで、教育委員会内の各課所が連携して、28年度の教育の重点施策の推進を図っていくという体制で進めております。

以上で、28年度小鹿野町教育行政重点施策の説明にさせていただきます。よろしくお願ひします。

町長 平成28年度小鹿野町教育行政重点施策について説明がありました。何かご質問等ございましたらお伺ひします。

質問がありますでしょうか。

私からお聞きしてもよろしいですか。

2の自立し周囲と協調できる社会性の育成の(3)地域の教育力を活用した子供たちの安心・安全の確保について、既に活動しているのですか。スクールガードリーダーや学校応援団、安全ボランティアはどんな活動を行っているのかお聞かせいただきたい。

高橋課長 スクールガードリーダーは県の委嘱になっていまして、小学校に1名ずつおります。登校時の子供たちの見回りを行っていただいております。それから、学校応援団については、各小学校にそれぞれ組織されていて、小鹿野小学校については、主任児童委員さん等に入っていたり民生委員さんに入っていたり、夏休みを使って色々な活動をしていただいております。他の学校については、夏休みということではなくて、年間を通して活動を行っていただいている状況です。

安全ボランティアについては、今年度、中学校が統合したということもあり、地域から安全ボランティアを募集して、4名の方から応募があり、通学時の見回りをお願いしております。基本的には、ご自宅の近くでお願いしているものです。

子供110番の家というのは、もうだいぶ前から制度化され、秩父郡内ではほとんどの市町で実施されていると思っておりますが、のぼり旗を立てたり「子供110番の家」という黄色い札を家の前に掲げたりして、子供たちの通学・下校の時にちょっと危険と感じた時に逃げ込めるように、また、急にトイレに行きたくなったときにその家のトイレを借りられるように、子供たちの逃げ場所というようなかたちで、各家庭に協力いただいているところです。ちょっと軒数については、把握はしていませんが、こういう形で行っております。

町 長 ある程度理解できました。スクールガードリーダーというのは、登下校の指導しているのですね。
 県の委嘱ということで、各学校1名いるのですね。

高橋課長 各学校1名です。

町 長 各学校1名で、登下校の指導しているのですね。

 「そうですの声あり」

高橋課長 この他に、学校応援団に入っている方も信号の所に立っていただいたり、交通安全のボランティアを行っていただいている方もおります。

町 長 皆さんからいかがでしょうか。

教育長 重点施策の流れで多くのことを行っているわけではありますが、先ほど課長が説明したとおり、この重点施策の流れというのは、大変に今回は具現化して、実施しているのは、参考資料の中にありますように4つの大きな事業が、初めてという言葉は失礼になりますが、教育委員会の課が協力し合って、高橋課長を中心とした学びの支援推進委員会ができた。その資料を見ていただいて、教育委員会内部の課がお互いに自分たちの特色を出し合って、その大きな主要事業が、そのカラー版の参考資料の4つの内容であります。このことが、今年の大きな重点施策かなと、教育長としてこういう形が取れたことを私自身喜んでいきますし、課の協力と皆さんが頑張ってくれたと思っています。
 特に、ときめき生活推進大学というのは、公民館と社会教育課が協力し合っているとか、教育委員会内部の課が助け合って行ったと、教育長として報告をさせていただきます。

町 長 他にはいかがでしょうか。
 朝比奈委員さん。

朝比奈委員 先ほど町長さんも話されたように、学力向上というのが、今、小鹿野町の大きな課題になっているのですけれども、こうした中で、中学生に対する未来塾を立ち上げていただいたわけですが、保護者の中の雑談の中で、子供たちの利用状況がちょっと少ない、「もう少し多くてもいいのではないか」という話も耳にします。この辺がこれからの課題になるのではないかと思います。利用状況はどうでしょうか。

高橋課長 お手元に小鹿野未来塾の現状というのがあるかと思いますが、ここにあるとおり、1番で参加者数の状況ということです。今月に追加募集をさせていただきました。追加募集前につきましては、漢検でいきますと130名の方が参加していると、英検が97名、中学生の未来塾が57名、科学不思議講座で34名、保護者の参観ということで

19名、計ですと337名ということになっておりました。6月に追加募集をさせていただきました。赤字になっているところが数字の変更、追加で増加している数字になります。総数になりますが、漢検では、10名増えて140名、英検については、4名増えて101名です。中学生未来塾につきましては、29名増加して86名ということで、総数380名で43名の増加ということで、現状ですと未来塾の参加者は総数で380名という状況です。

英検・漢検等は、講師の先生の関係、ある程度の人数に制限しないと、いろいろ教室の数だとか制限がありますので、ある程度定員を絞らせていただいております。今年状況を踏まえて、来年度に向けてどう改善できるかということが、今後の課題になろうかと思うのですが、指導する講師の方をどう手配するかとか、という部分も考慮しながら、考えていきたいと思っております。

朝比奈委員 漢検・英検の実施日というか検定日はいつになりますか。

高橋課長 検定日は基本的にこちらでは設定しておりません。目指す試験なので、中間で受けたい人は個人的に受けることになるのだと思います。

朝比奈委員 町は、前に一斉に漢検は小鹿野高校で行っていたと思いますが。

高橋課長 未来塾と小鹿野高校は連携しているので、小鹿野高校が会場での漢検、いわゆる地域開催の部分だと思っておりますが、これについては6月に1回実施していると思っております。英検については、中学校の生徒を対象に一斉に行っていますけれども、そこには、一般の方は今までも受け入れていないので、中学生を対象。それから、未来塾に来ている方ということで行っています。ですので、町の中で行っていたのが今言ったその2つ。そこを受けなさいという指定は、こちらではしていません。

英検・漢検の1回の受験料補助という部分は、ねらいとすると最後、全部講座が終わった後に、成果を確認してもらうために最後のところは補助しますということで、継続して6回なりの講習に来てほしいというのが、今回の受験料の補助ということになります。英検・漢検については、年6回しか講座がありません。6回受講すれば受かるかというそういうものでもありません。それを契機としていかに家庭で勉強するという習慣をつけてもらえればというきっかけにしたいと。それと、親子共学にしたというのは、子供だけではなく親子と一緒に学ぶというところで、家庭の中に学習という習慣をつけてほしいというねらいで実施している部分で、あくまでもきっかけになればというところです。これによって、家庭の中において、親子で「漢検にチャレンジしてみようか、英検にチャレンジしてみようか」という会話の中で「それでは一緒にやってみようか」ということで、家での家庭学習が促進できたらなというのが、間接的な効果をねらっているところです。

町長 漢検・英検の講習の内容はどのようなになっているのですか。

高橋課長 級ごとにクラスを分けて、その受験用のテキストに基づいて受験に向けた勉強をしています。
試験については、未来塾では実施していません。

教育長 漢検も英検も年に3回ずつ検定があります。漢検とか英検テストというのは、教育委員会や行政主体で開催できないことになっています。学校の規模・主体でないとできないので、漢検は小鹿野高校でした。英検は小鹿野中学校を中心にしながらということで、テストの組織というものがなかなか難しく、その3回のテストを受けるための勉強を徹底的に未来塾で行っています。補助金はその試験を受けるための費用を1回のみ補助する予定です。

町長 中学生未来塾の内容は。

高橋課長 通常の学校の補習です。補習授業みたいなものです。

町長 朝比奈さんが言われたように参加者がちょっと少ない気がしますが、1年増すごとに参加者も増えていけばいいと思います。

高橋課長 中学生未来塾の今後の課題は、今のところ1クラスで、学力差があっても標準的な補習しかできないので、今後は、勉強の進捗状況によってクラスを分ける必要もあるのではないかと考えております。

町長 どういう教科を補習しているのか。

高橋課長 英語、国語、数学の3教科です。

町長 3教科を月に何回行っているのか。

高橋課長 第2・第4の土曜日ということで、月2回実施しております。

小池委員 土曜日に実施ということで、部活動との兼ね合いが出てくると思います。そのあたりが課題になると思いますが。学校には、部活動の件でお願いはしているのでしょうか。

高橋課長 教育委員会としては、第2・第4だけ部活を休んでもらうようお願いしています。

また、部活動も最近、新聞等で報道されていましたが、中学校については週2回、高校については週1回休むべきだと。要するに、教師の負担軽減ということで報道されていることも踏まえながらお願いし、その分、未来塾に参加して頂ければと思っております。

部活を一生懸命やっている生徒については、部活ができないという部分があったりすると思いますが、そのあたりを調整しながら進め、学力向上ということも学校にとっては重要なことですので、協力をいただきたいと思っております。

町 長 未来塾はスクールバスを出しているのですか。

高橋課長 未来塾については、通常の通学と同じようなかたちで、三田川、両神、長若にバスを出しております。参加する生徒については、事前に把握しておりますので、その生徒を乗せて来ると。今、小池委員が言われたように、午後、部活を行っている部もあるので、お弁当を持ってきている生徒もいます。午前中は未来塾に出て、午後、部活に出てから家に帰るといことで、帰りはスクールバスに乗らないという生徒もおります。

基本的には、朝と帰りにスクールバスを出しております。

町 長 他にはご意見等ございませんか。
高橋委員さん。

高橋委員 夢と志をはぐくむ小鹿野教育の計画は、非常に色々な角度から検討されていて、具体的な政策まで手立て加味されていて、大変良くできていると思います。

未来塾についてですが、私は、これだけの人数をよく集めたなと思います。これを続けていく中で、いい評判ができればもっともっと参加者も増えていくと。ですから、未来塾を実施した効果も必要なのかなと思います。

また、この計画全体もそうですが、これをどう啓発していくかということも、社会教育も含めて必要かと。私も学校に携わっていたので、教員の研修にしても重要だと叫ばれていて、教員の指導力・能力が落ちているとお聞きしますし、私も保護者の方や地域の方たちと話をする中で、教員の話も出てきます。そういう中で、やはり私などがやっていた時と違って、学校も大変だということは地域の方も認めています。そして、学校が地域と連携し、非常に深まっているのは感じます。そういう中で教員は大変なんだろうと、特に、若い先生方が、保護者あるいは地域住民の言葉で読んで取れます。そういう意味で、ここにもありますけれども、新任教員の研修会を実施していただいて、特に、人権教育だとか非常に大事ですので、教員の指導を含めて力を入れてもらいたいと思います。私も何かお手伝いできることがあれば、協力したいと思います。

教育長 教員の研修という点では、高橋委員さんが言われるとおりで、努力しなければならぬところです。

教員が二極化してしまっていて、高齢者と新任とで中間帯がない状況になっています。やはり、高齢者の方が新任を育てるということもあって、最近、こういう問題になっています。新任教員を、町で言うと新任職員なんだろうけど、学校の教員が、全部が新任教員にこういうことを配慮しなさいということの指示が県から出ております。年齢の高い人、中堅の人など、そういう教員に新任教員のこういうところを注意してあげて、助言の言葉をかけてくださいという、こういう細かいところまで指示があり、年間10人まではいかないのですが、新任教員が辞めていると。そして、辞めた時の様子が、精神的な部分とか色々なものがあるといことで、小鹿野町でも新任教員が今年4

人おります。その4人を皆で支えていくというようなことで進めております。5年未満の教員が約25から30パーセント近くおり、職員構成からしても5年未満の教員が多いという現状です。それと同時に年齢の高い人も多いというようになっています。5年未満の教員も含めて養成していかなければならない状況です。

町に、小鹿野中学校の事務職員を町費で援助いただいたのですが、何故かという、長若小学校に高等学校を卒業したばかりの人が事務職員として入りました。周りで教えてあげたいのですけれども事務職の専門的なことは、なかなか教える者もないので、町長にお願いして、小鹿野中学校にその職員を見る条件で、指導いただくことで臨時的にベテランの臨時職員を配置させていただきました。

教員の若手、新任教員に拘らず養成するのが、今後の大きな課題になってくると思いますし、力を入れていきたいと思っています。

町長 事務職の場合は学校に何人もいるわけではないので、県で配慮すべきだと思う。教員の場合は、学校に何人もいるから指導できるけど、小さい学校は、事務職員は1人しかいないのだから。

高橋課長 今回の件は、県の教育委員会訪問の時、事務職員については、大規模校だと二人配置になるので、まずそこで育成してから配置していただくように要望しました。

県が配慮してくれないので、町でこうした配慮をしたということを県に伝えました。

町長 他にはいかがでしょうか。

齋藤委員 教員の資質の問題とか、学力向上の件で、今、事務員の話が出たところですが、学力向上のところではICTを生かした授業というのがあるけれども、ICTというのは進みすぎてしまって、教員もなかなか教えるのが大変だと思います。東京都だとか私立高校なんかは、IT企業とか大学とかと提携して授業を行っていますけれども、小鹿野町でも来年度あたりから検討できるようでしたら、検討して頂きたいと思いますが、いかがでしょうか。

黒田主幹 ICT推進員が現在、3人おります。各学校に定期的に小・中・幼稚園・保育所を3人で手分けして、全部回っていただいております。教材作りとかの手伝いをしています。実際、授業ということになると、教員免許は持っていません。とりあえず、コンピュータの専門家なので、先生にこういう教材を作ってくれといわれれば対応できるのですが、その一歩先のこれをどう教えるかというノウハウは持っていません。ですから、先生と連携が出来て、やればいいのかいでしょうけど、先生のITの能力等の絡みもあるので、なかなかうまく進めていない状況で、先生のお手伝いをしているのが現状です。

今、文科省のほうで二分の一の補助で、学校にタブレットを整備しましょうという動きがあります。ただ、金額的には大分嵩むので、二分の一補助といわれても残りの二分の一は持ち出しになってしまうので、何千万という支出になってしまいますから、具体的には検討して

いない状況です。

町長 他にはいかがでしょうか。私から一つ聞いていいですか。
この前テレビでやっていてPTAのことですが、PTA活動の負担が大きくて、それは勤めている人なのですが、代行屋とか代わりに出してくれる人に依頼する人がいるみたいです。小鹿野町では、PTAの活動に対して、色々な意見というのはあるのですか。

黒田主幹 私が個人的に聞いた話ですが、三田川小学校のPTA活動も児童数が少ないので、当然家庭数も少ないわけです。ですから、全員が役員。しかも、回り番で毎年何かしらの役が回ってきて、子供が2～3人いると卒業するまで、ずっと役員をやるので、これは大変だなという個人的な意見は聞きます。

高橋課長 代行というのは聞いたことがないです。奉仕作業みたいな時に、出られないから代わりの人というのはあるかと思いますが。

町長 そのテレビでは、最終的には、PTA活動も今後、考えていかなければならないという内容でした。共働きしていると出られない時があって、そういつ時には代行屋に頼むというテレビでしたが。
他にはいかがでしょうか。

教育長 重点施策の中に、英検の4割というのを今年入れさせていただきました。今の、小鹿野町の英検の所持数を入れさせていただいておりますので、先ほどの未来塾の人数のページの次のページになりますが、ちょっと見ていただきたいのですが、なぜ、教育委員会の重点施策で4割かと、右のほうにカラーになっているところですが、町の目標が40パーセント、国・県の目標は50パーセントです。では、誰が50パーセントなのかですが、3年生の卒業の時期に3級を持っている目標を50パーセントという意味であります。平成26年・27年の小鹿野町の実態を見ていただくと、40パーセントにはまだ程遠いと。26年度は14.9パーセント、27年度は26.0パーセントという状態ですので、来年40パーセントに達したいという目標であります。

町長 他にご意見等ございますか。
ないようですので、次に(2)その他についてですが、何かご意見等ございますか。教育委員会からは何かありますか。

「ありませんの声あり」

教育委員の皆さんはいかがですか。
ないようでございますので、大変皆様方のご協力をいただきました。議事も無事に終了いたしました。
以上で、本日の総合教育会議を閉会いたします。本日は、大変お疲れさまでした。

閉会 午後 2 時 30 分